

佐賀県研究成果情報

11月中旬以降に出荷できる紅系早生温州ミカン品種「佐賀果試6号」の特性					
[要約]「山下紅早生」の <u>珠心胚実生</u> である「佐賀果試6号」は、育成地での収穫・出荷が11月中旬以降で、同時期の <u>紅系早生温州ミカン</u> に比べて <u>減酸</u> が早く、 <u>糖度</u> が高い。					
果樹試験場・品種開発研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果樹	専門	育種	対象	温州みかん

[背景・ねらい]

早生温州ミカンの出荷は11月上旬から始まるが、本県はこの時期の出荷量が少ないことから、早生みかんの生産増が求められている。近年、佐賀県では有望な早生温州ミカンの品種が出ておらず、早期減酸、早期着色、高糖度等を育種目標として、11月中旬以降に収穫・出荷可能な紅系早生温州ミカンを育成した。

[成果の内容・特徴]

1. 1991年に果皮色が濃紅色の「山下紅早生」を母本に、「佐賀マンダリン」の交配親「フェアチャイルド(クレメンティン×オーランド)」を花粉親として交配した珠心胚実生より育成した。2000年から「Y-1」の系統番号で選抜試験を行ない、2002年に選抜を終了し「佐賀果試6号」と命名した(写真1)。
2. 「山下紅早生」と比較して、樹勢についてはやや強い。結実が安定するまでは枝梢にトゲを有するが、安定後は徐々に減少し、ほとんどみられなくなる。
3. 果皮の赤色値は、同一時期で比較すると「山下紅早生」と同程度となる(表1)。
4. 減酸については早く推移し「山下紅早生」よりクエン酸含量が0.19%程低く、果実糖度は1.2程高く、糖酸比は14程度である(表1)。
5. 果肉中のβ-クリプトキサンチン含量は、他の紅系温州ミカンと比較すると高い(図1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 11月下旬以降になると退色も見受けられるため、適期に収穫を行なう。
2. 果実品質向上のために、排水および日照条件の良好な園地で栽培する。

[具体的データ]

表1 「佐賀果試6号」の果実特性(2009年より3ケ年の平均値)

品種名	横径 (mm)	縦径 (mm)	果径 指数	果重 (g)	果肉 歩合 (%)	着色 程度	果皮 色 ※1	a 値 ※2	浮皮 程度 ※3	クエン酸 含量 (%)	糖度 (Brix)	糖酸 比
佐賀果試6号	69.2	52.2	132.6	134.0	83.4 ^{ab}	9.8	8.5 ^b	30.6 ^b	0.0	0.82 ^b	10.9 ^a	13.2 ^a
山下紅早生	67.9	52.2	130.4	127.0	82.5 ^{ab}	9.9	8.8 ^b	32.1 ^b	0.3	1.01 ^a	9.7 ^c	9.7 ^c
小原紅早生	69.0	54.0	128.1	136.8	83.5 ^a	10.0	10.5 ^a	39.8 ^a	0.1	0.94 ^{ab}	9.7 ^c	10.3 ^{bc}
太幸早生	67.4	52.0	129.9	127.4	81.9 ^b	10.0	6.5 ^c	26.3 ^c	0.2	0.90 ^{ab}	10.3 ^b	11.4 ^b
有意性 ^{※4}					*		*	*		*	*	*

※4 Tukey-Kramer HSD 多重検定による5%水準の有意差あり 果実分析日:2009/11/12、2010/11/10、2011/11/8

※1 独法果樹試カラーチャート値

※2 ハンター Lab a 値

※3 基大3 軽1 無0



写真1 「佐賀果試6号」果実

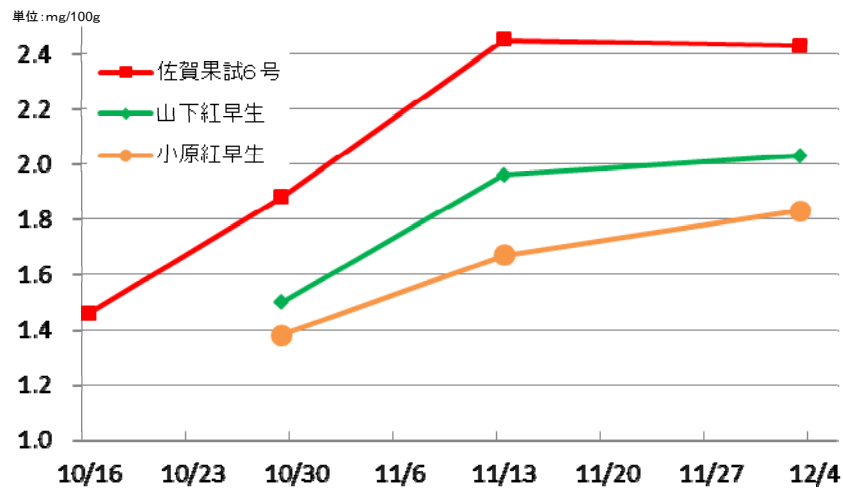


図1 果肉中のβ-クリプトキサンチン含量比較(平成21年度)

[その他]

研究課題名: 極早生・早生温州みかんのブランド確立のための突然変異を利用した新品種の育成

予算区分: 県単

研究期間: 1991~2011年度

研究担当者: 松尾洋一、八田聡、岩永秀人

発表論文等: 松尾ら「佐賀果試6号」品種登録出願 2011年3月24日(第25722号)